

インタビュー ～滝川から栃木へ～



農業委員会事務局長
木村 純 さん

平成14年に派遣職員第1号として栃木市へ。現在は、栃木市に派遣された滝川市職員で構成する「うずまの会」の会長を務める。

私が派遣されたのは、ちょうど30年前です。その時は友好親善都市盟約10周年で、職員交流をしようということで、派遣交流事業が始まりました。もともと農業系の大学出身で、農業政策に携わっていたので、当時の林市長から「首都圏の農業を見てきてほしい」と言われたのが派遣の経緯です。向こうでは、農林課振興係に1年間配属となり、いろいろな

研修会に参加させていただき、農業系の仕事をメインにしました。派遣職員第1号だったので、栃木市の広報紙やケーブルテレビに出させていただいたり、「北海道のことを話してほしい」と、町内会長さん向けの講演依頼を受けたりしました。栃木市の特色といえば、やはり歴史的な景観です。例幣使と呼ばれる幕府からの使者がいますが、彼らが通る街道の宿場町として栄えたのがこの土地です。また、川を使った交易も盛んでしたので、交易で使われた巴波川のほとりには蔵が並んでいて、とても趣があります。歴史の長さや深さという点では、北海道と大きな違いがありますね。

今でも栃木の方とは連絡を取りつつも実際に訪れることは減ってしまったので、また機会があればぜひ、思い出の地に行き、栃木の人々の温かさに触れたいですね。

栃木市長 からの メッセージ

滝川市と栃木市が昭和57年に友好親善都市盟約を締結してから40周年を迎えることができましたこと、栃木市を代表いたしまして、心より感謝と御礼を申し上げます。

盟約締結以降、栃木市民が滝川しづき祭り、たきかわ夏祭り、たきかわ菜の花まつりに参加し、滝川市民がとちぎ太山・蔵の街マラソン大会、栃木市の産業と物産展に参加されるなど、市民レベルでの交流が進み、友好を深めて参りました。さらに、職員の相互派遣を通して、両市の連携強化、職員の育成、相互理解による両市の発展に努めてまいりました。

令和元年東日本台風では、栃木市が大規模な水害を受けました。その際には、いち早く滝川市から職員を派遣していただき、復旧復興に向けた業務へご尽力いただきましたことに、心



大川 秀子 栃木市長

から感謝を申し上げますとともに、滝川市民の方々からご重なるお見舞いを頂戴いたしましたことに、改めて心より御礼申し上げます。

令和2年以降、新型コロナウイルスの感染拡大により、人的交流は見合せておりましたが、今年7月に滝川市において記念式典が挙行され、栃木市・滝川市交流推進の確認書を結び、これからの交流の促進を約束いたしました。

今後におきましても、これまでの歩みを振り返りながら、未来に向けて、滝川市とのさらなる交流を進め、両市の絆をより強固なものにして参りたいと考えております。

結びに、市民の皆様のご健勝と、滝川市と栃木市がこれから先も互いに助け合い、友好親善都市として相互に発展することを祈念申し上げます。

栃木との交流を より深く

本特集では、友好親善都市盟約40周年に際して、栃木市との交流の歩みや栃木市の特色を紹介するとともに、うずまの会長そして栃木市長に想いを語っていただきました。

これからも、市の交流事業として、経済交流と人事交流をさらに活発にしていこうという共通認識のもと、歩を進めていきます。経済交流に関しては、道の駅などでお互いの特産品を設置し、より広い形で物産交流をしていく見通しです。また、人事交流については、近年中止されている人事交流を短期間の派遣から再開し、現地での人とのつながりを通して、両市の絆を大事にしていきたいところです。

市民の皆さんは、物産交流を通じて滝川にしながら栃木の魅力を味わうこともできますが、機会があればぜひ、現地に足を運び、歴史的な情景を肌で感じながら、友好親善都市である栃木をもっと知っていただければと思います。本特集が、栃木市との交流をさらに深めるものになれば幸いです。

特産物

栃木市は、農家の数が県内でも多く、彩り豊かな農業が盛んです。

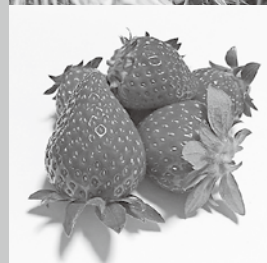
二条大麦

ビールのもととなる大麦。全国でも有数の生産地であり、ビール会社との契約生産を行っています。



いちご

生産量全国トップクラス。いちごの品種の中でも有名な「とちおとめ」は、栃木市にある試験場で開発されました。



このほかにも、ぶどうや梨、トマトやニラなどいろいろな特産物があります。

観光

江戸時代は、街道交通や舟運による商業都市としてにぎわいました。古くから残る歴史的な建造物が今でも数多く残されているので、現代に残る小江戸の雰囲気味わうことができます。



また、豊かな自然も見どころです。栃木市の中心部に位置する太平山の桜街道やあじさい坂、秋には紅葉と季節ごとにきれいな景色が楽しめます。

とちぎはこんな所



- ・人口約15万6千人
- ・栃木県の南部

栃木市の魅力を一部紹介！

伝統

栃木市の伝統行事といえば、「とちぎ秋まつり」。豪華な人形山車を引いて、街を練り歩く栃木市最大のお祭りです。



明治7年(1874年)、県庁構内(当時栃木町、現在栃木市)で行われた神武祭典に山車を練り出し祝ったことに始まります。平成17年までは5年に1度の開催でしたが、今では隔年開催となりました。



2012年に滝川市長をはじめ市職員も訪栃し、祭りに参加しました！